



僕は……

君とは友達で
居られない

ごめんもう無理だ

僕は

君の綺麗な脚に
劣情を覚える
どうしようもない変態
なんだ……





母と共にデパートを
歩いている時のことだった



僕が一番古い記憶は確か
五歳頃のもので



しばらくその場を
離れることができなかった

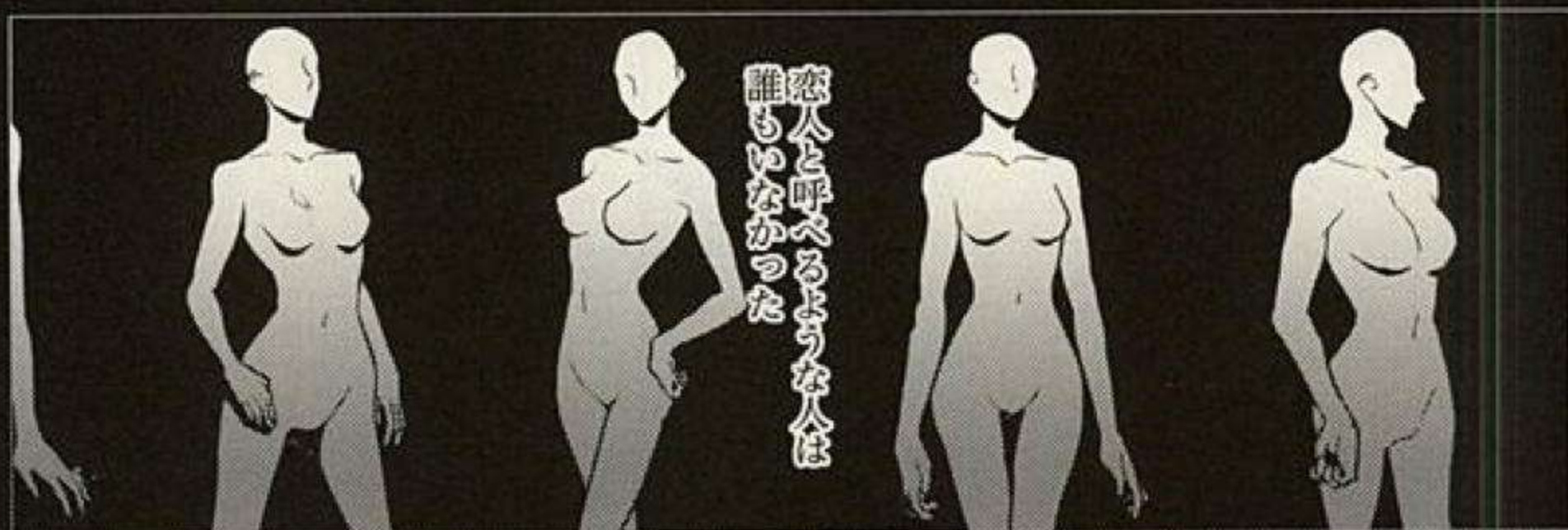


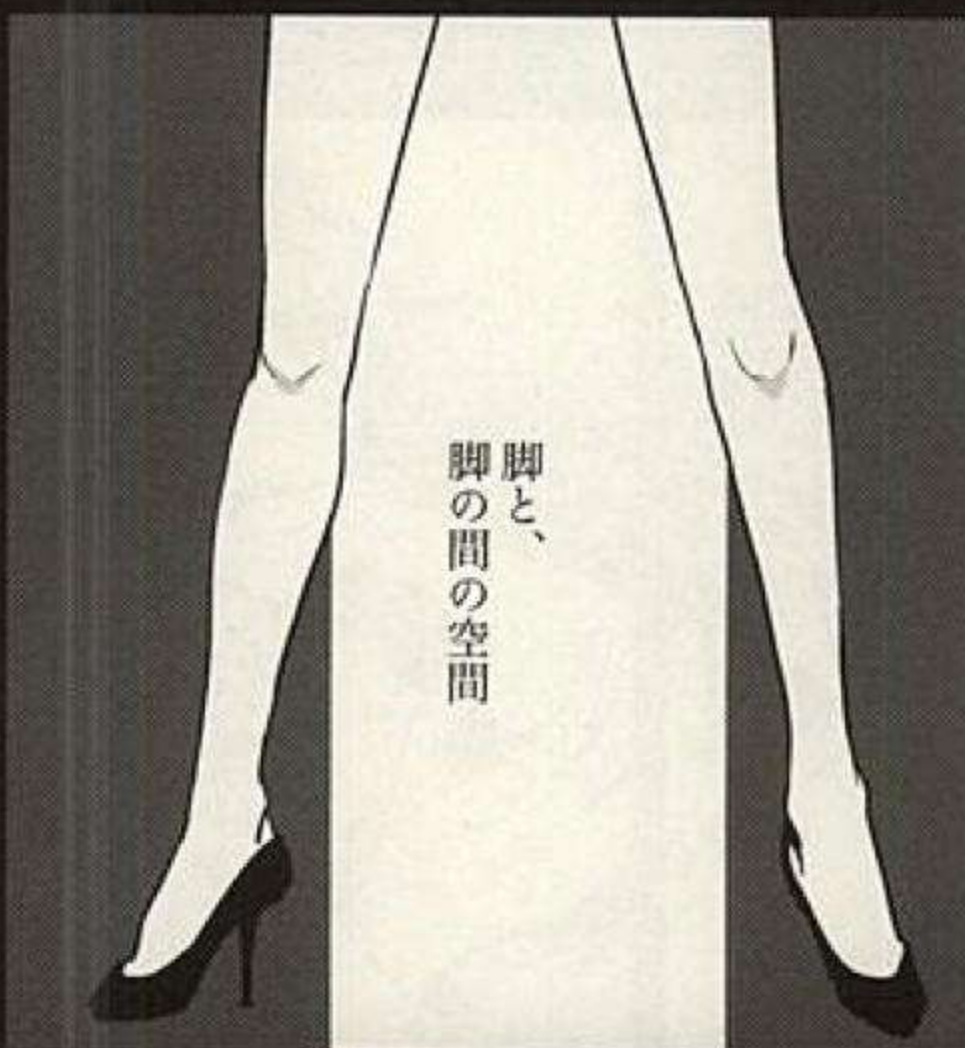
世界で一番美しいものに
出会った僕は

二次性徴が訪れる頃には
僕は生身の女性に
困ることはなくなっていた



でも





脚と、
脚の間の空間



僕の異常さに
彼女たちは難色を示し
去っていった

僕の執着対象は
それでしたか
なかったんだ





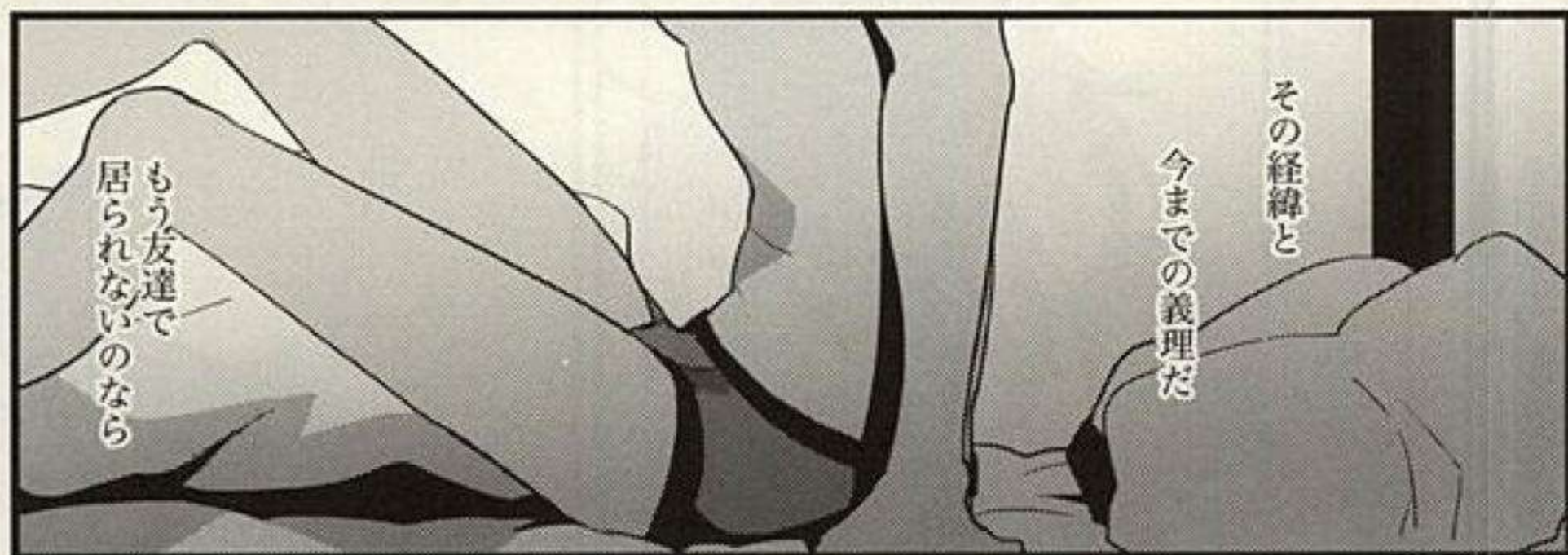


よくここまで
隠し通じたな

感心



長い付き合いだが
そんな性癖もちだとは
全然気付かなかった



その経緯と
今までの義理だ

もう友達で
居られないのなら



うわ



これをキツカケに
会わなくなっても
……

ドソ

ドソ



でも
使わせて

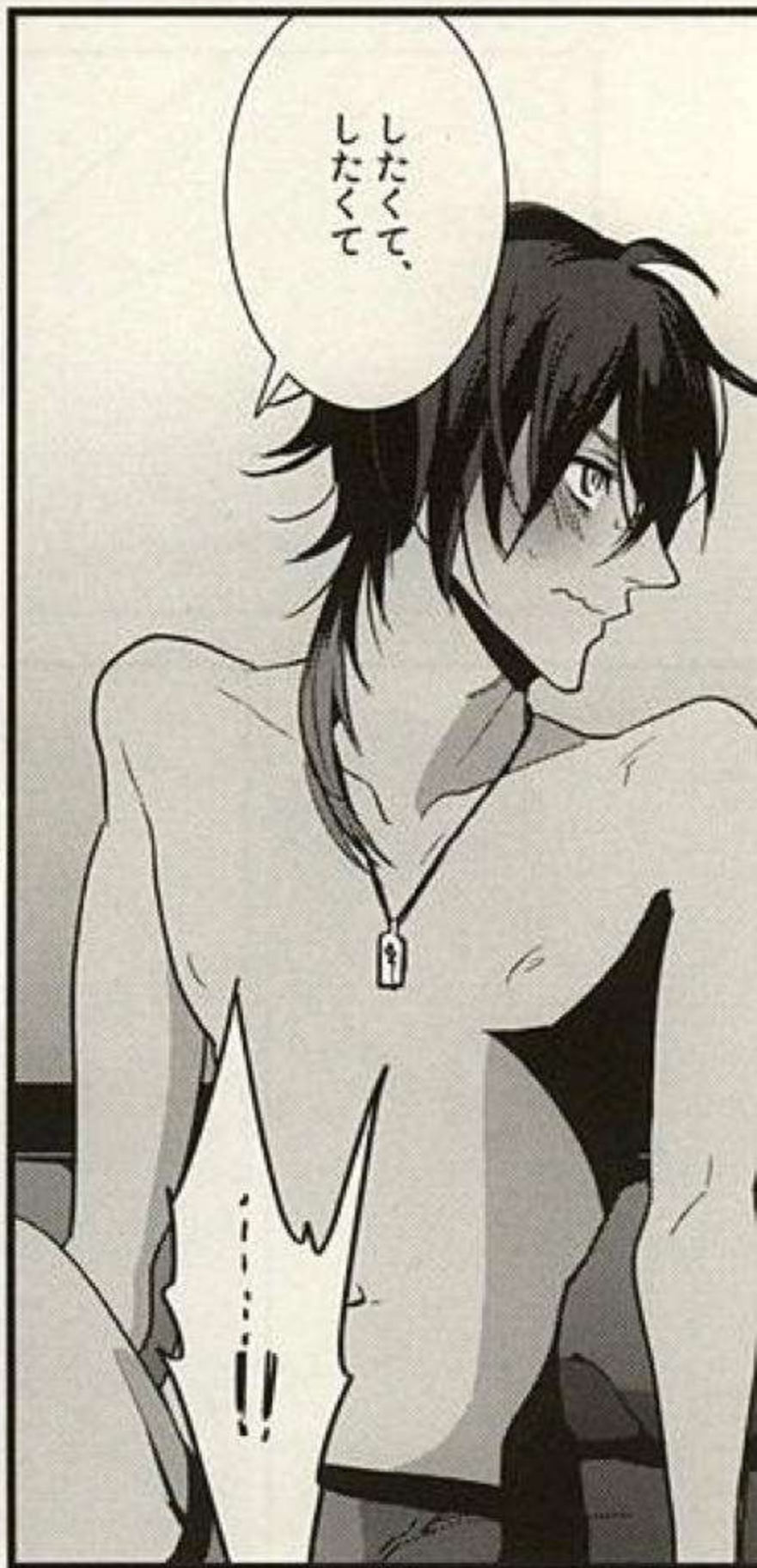
候ずっと



ひろみつ
変態でごめんね……



ん



したくて、
したくて、
したくて



よせ!

廣光もしたい?

ばいばい



僕だけの自慰より
よっぽどいい

俺は
よくない



遠慮しないで



よせ……
光忠

やるな

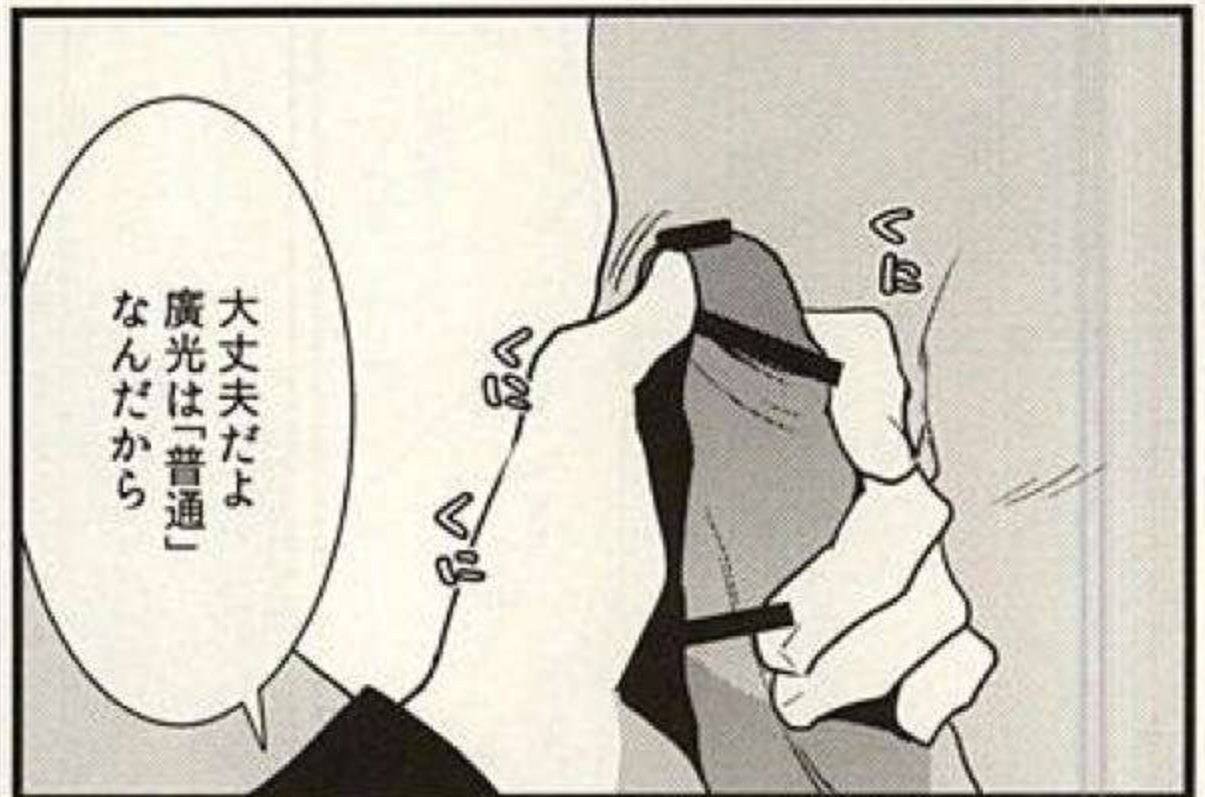


そういう問題
じゃ……



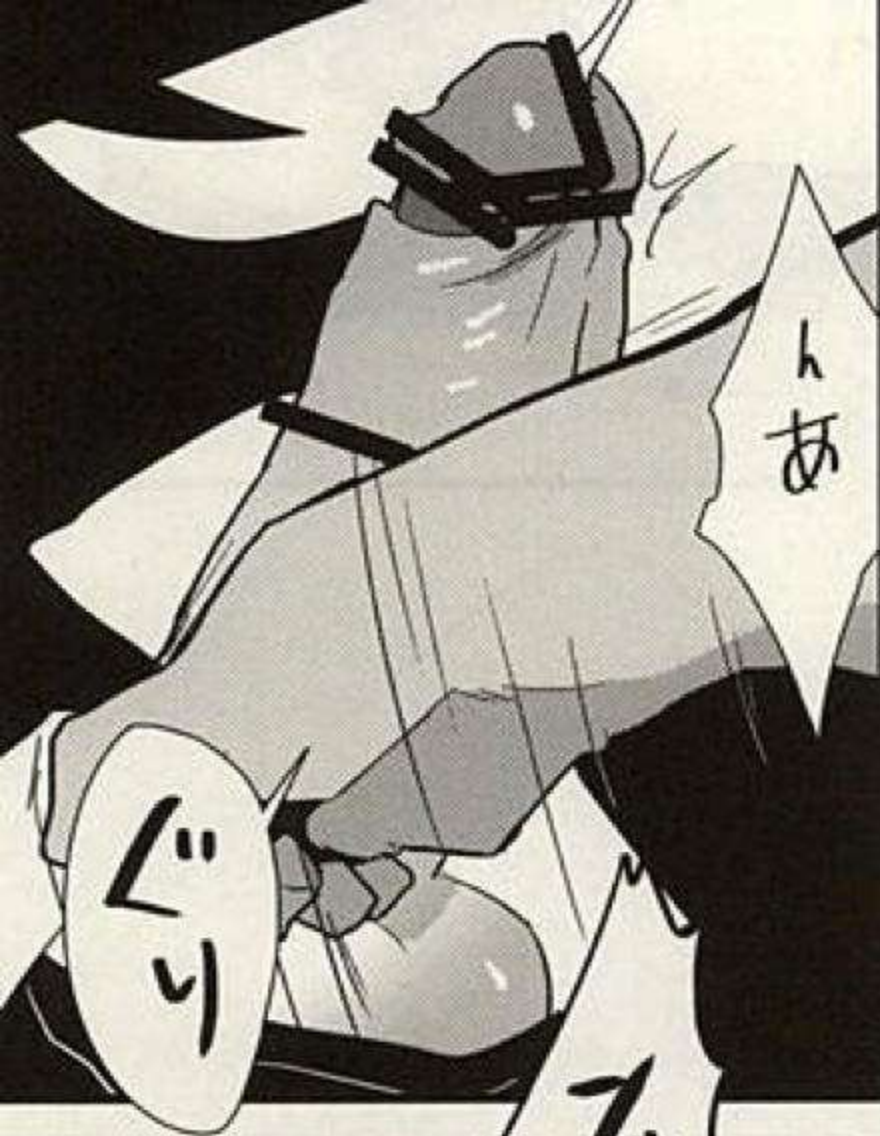
待ってくれ

そんなの
聞いてない



大丈夫だよ
廣光は「普通」
なんだから





んあ



フッ



待ってくれ

人にして貰うのって
こんなに……

あ

あっ

うめ……



び

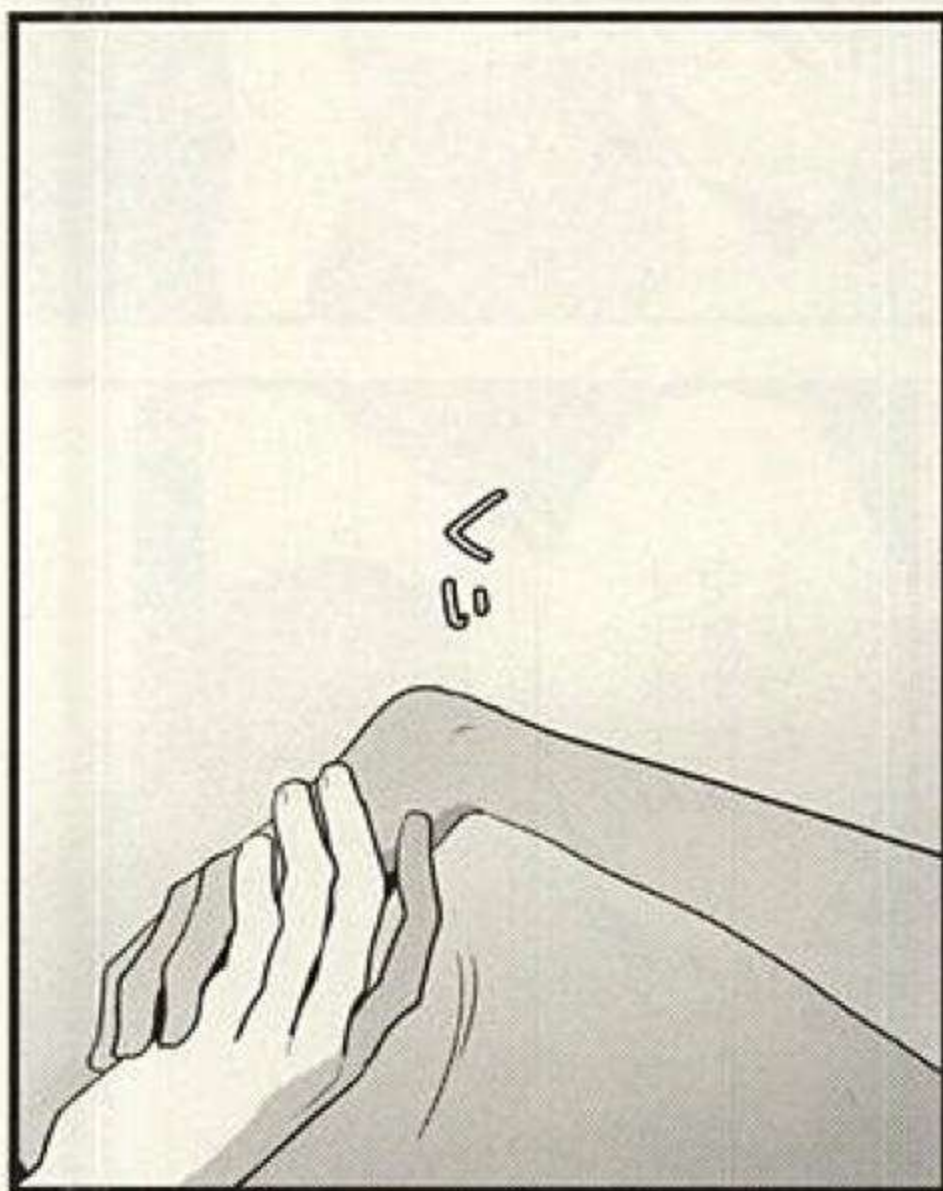
ヤ

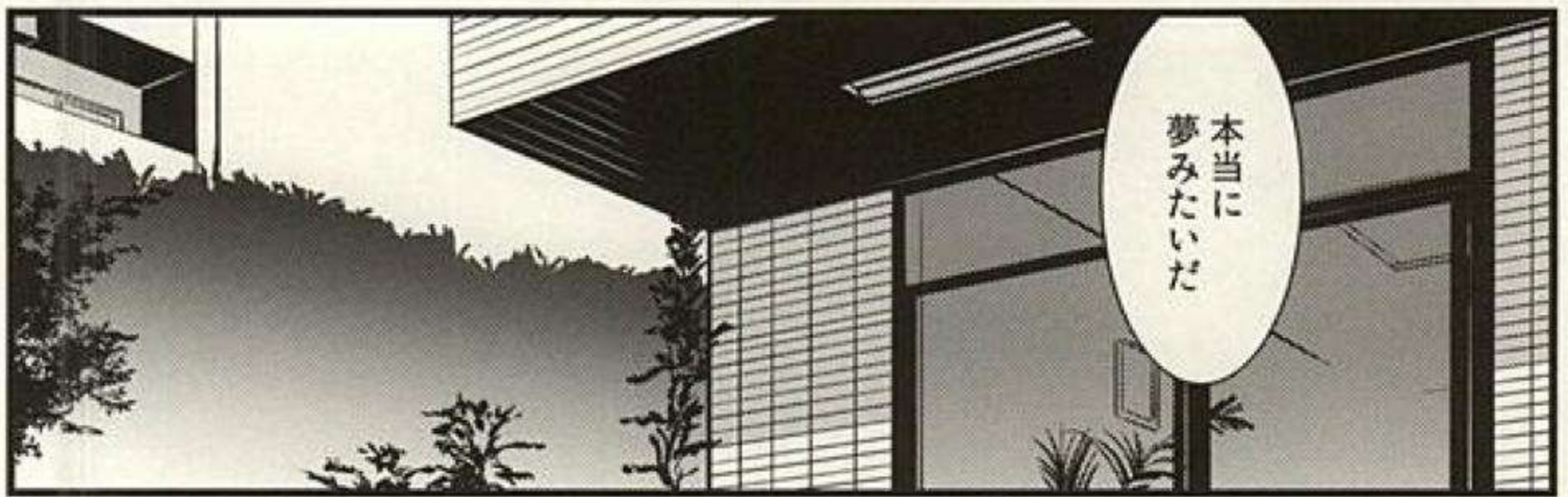
○○○

あ

……ッ!!







本当に
夢みたいだ



君は優しいから



僕の秘密を
晒け出しても
またこうして君と
過ごせるなんて



何も言わずに
去るべきだと
何度も考えた……

でも結局
受け入れて
貰っちゃったね

なんだか
いつ死んでも
いい気がする



あのね



縁起でもないこと
言うな

それくらい
嬉しかったって
ことだよ



今の僕らは
お金だけの
関係だから

廣光が誰かと
付き合うことを
制限する気はないんだ



と

言いたい
ところだけど



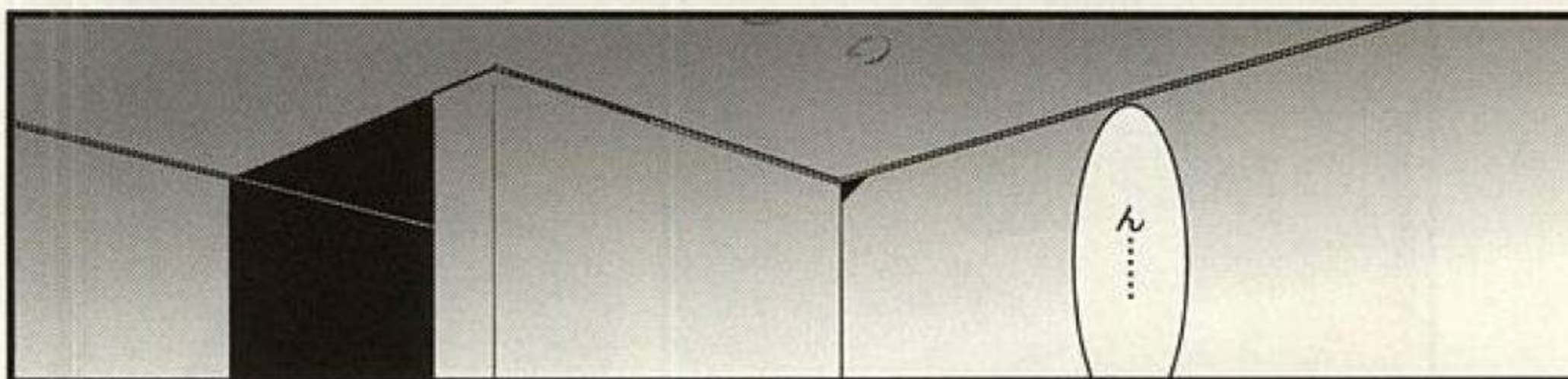
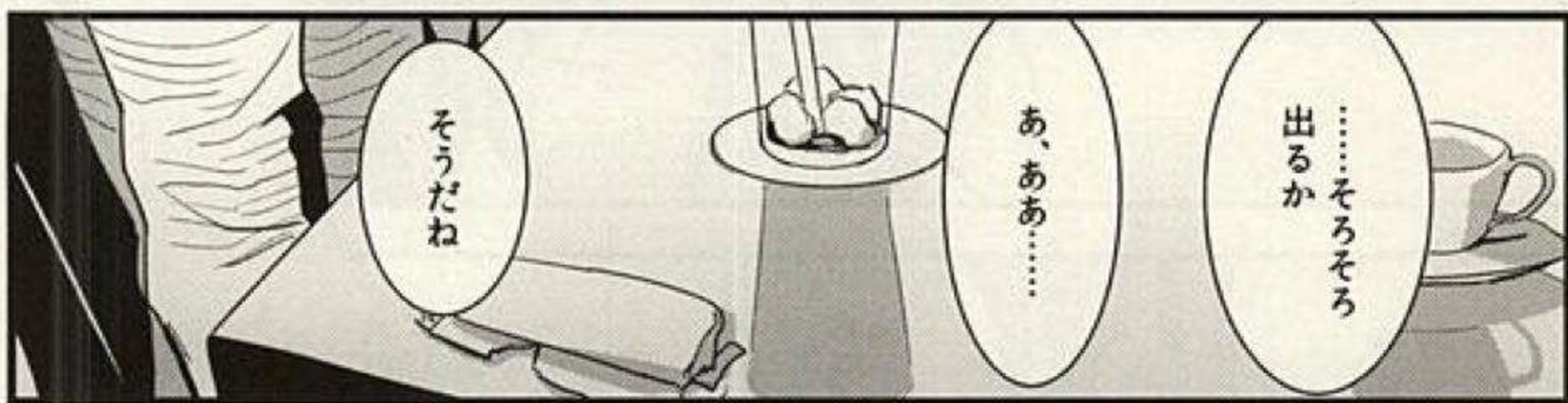
美脚はすぐに
逃げていくけど……

僕は一生そうやって
脚を追いかけて
いくんだらうから



君の彼女は
許してくれない
だらうから……

その時には
身を引くよ





SS.....

ああ



はあ

ん



.....

こんな体勢で
綺麗も何も
ないだろ



綺麗だ

廣光.....



廣光

あのね.....



今はここにまで
興味が
向いてる

今まで
脚にしか
勃たなかったのに

びく



え

おい

お

る

る



僕こんなもの
初めてなんだ



……
させてくれるかい？



待て……!!

ここを使うには
ちやんと準備
しないと



ちょ



え



準備って……
馬鹿!



決めたんだ



口でやる奴が
いるか!

いるよ?

大丈夫だよ
今回はちやんと
勉強してきたから



今日は君を
全力で買うんだって



色々
持ってきたけど
やっぱり……
最初に入るのは
僕じゃないと

アッ
アッ



あつ

す

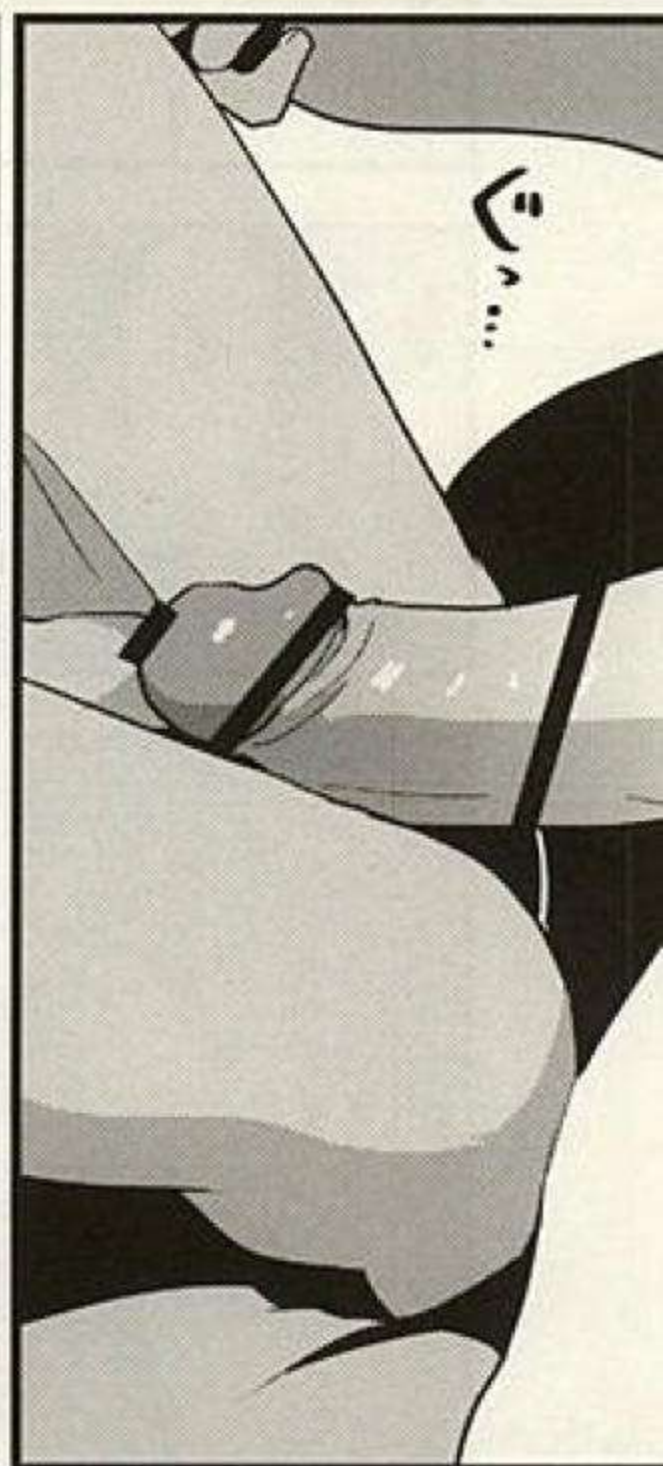


光忠……？



ああ
俺は







.....!!



だから迷うな

俺が痛がっても
思いつきりやれ



ッ信じるよ.....!

遠慮じゃない
って!



あ

ああ

ぐ

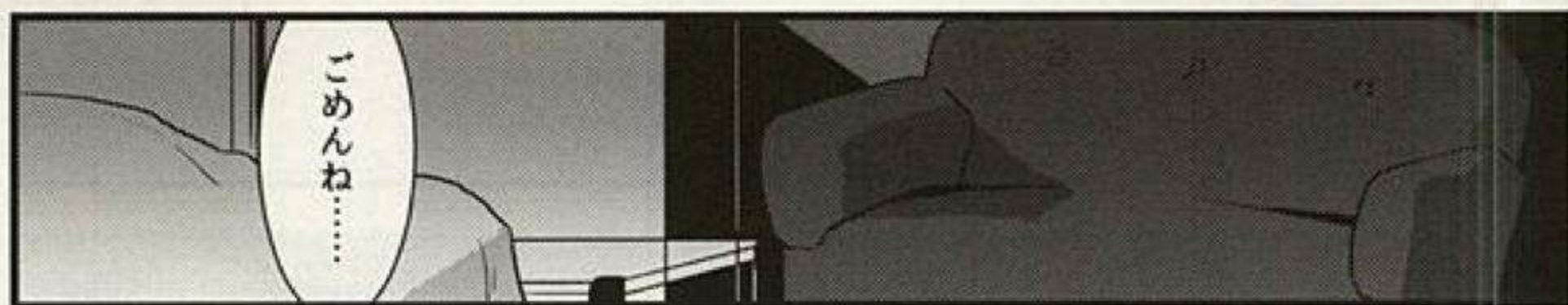
ぐ

ぐ

あ.....!









俺は
腹を括ったと
言ったぞ

だって

謝って
ばかりだな



俺が女を作らないよう
努力する気はないのか



あなたの性癖を
全部
買ってやるって

それで
あなたは



飯の時……
あなたが諦めを
見せた時だ

ひろ……



……俺以外に
頼ろうとするのが

ひろく
いらついた

まっ
っ

